釧路市教育委員会　平成３０年第８回４月定例会会議録

１　日時：平成３０年４月１１日（水）１６時３０分から１７時４０分まで
２　会場：釧路市教育委員会室
３　出席者
　　岡部義孝教育長
（教育委員）
　　山口隆委員、松尾千穂委員、種村俊仁委員、小出美貴子委員
（事務局）
　　高玉学校教育部長、川畑生涯学習部長、髙松教育指導参事、
　　江縁学校教育部次長、藤岡総務課長、高木教育施設調整主幹、
　　小野施設計画主幹、土江田総括指導主事、坂本青少年育成センター所長、
　　仲谷学校教育課長、米田学校給食課長、和田北陽高等学校事務長、
　　澤口生涯学習課長、松本オープンカレッジ推進主幹、永井美術館長
　　工藤スポーツ課長、北澤国体推進室長、佐藤博物館長、
　　松本ふれあい主幹、牧野阿寒生涯学習課長、山田音別生涯学習課長
４　議事録署名人　　山口委員、小出委員
５　傍聴人数　　０人
６　提出案件
【公開案件】
報告事項
（１）平成３０年度　市立小中学校児童生徒数等の状況について
（２）平成３０年度　北陽高等学校入学生等の状況について
（３）平成３０年度　釧路市奨学生の決定について
（４）平成２９年度　全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について
（５）ゴールデンウィーク中の生涯学習施設の開館等について
（６）平成３０年度　市立美術館事業について
（７）第１２回　全日本少年アイスホッケー大会（中学校・男子の部）の開催結果について
（８）釧路市動物園の展示動物の動向等について
（９）学校の現状について

７　会議内容

【公開案件】報告事項
（１）平成３０年度　市立小中学校児童生徒数等の状況について

（仲谷学校教育課長）
今年度の新入学児童生徒の状況は、市立小学校の１年生は前年より７１名少ない１、１４３名である。また、中学校１年生は、前年より５１名少ない１、２０９名となっている。
このほか、附属小学校の１年生は５６名、附属中学校の１年生は１０６名、武修館中学校の１年生は８名となっている。
次に、市立小中学校の児童生徒数の動向では、前年度の同学年比では、小学校６年生のみが若干の増加となっている。また、小学生の総計は、前年度より２１４名減の６，９１６名で、中学生の総計は、前年度より１５４名減の３，６０７名となり、毎年、小学校、中学校ともに、減少が続いている状況である。
しかしながら、特別支援学級在籍児童生徒は、小学校、中学校とも、毎年増加しており、総計で前年より７３名多い、６０７名となっている。
なお、今回の集計は４月２日現在のものであり、今後、学校基本調査等で使用される、５月１日を基準とした報告値においては、若干の増減が生じるものと思う。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。
（山口委員）
特別支援学級在籍児童生徒数について、入学段階での人数だと思うが、その後、普通学級から編入する際はどのようになるのか。
（仲谷学校教育課長）
例えば、３年生まで普通学級で４年生から特別支援学級になる場合は、３年生時に判定を受け、４年生に進級する際に学級替えとなる。年度途中での学級替えは、ほぼ無い状況である。

【公開案件】報告事項
（２）平成３０年度　北陽高等学校入学生等の状況について

（和田北陽高等学校事務長）
まず、平成３０年度北陽高校の新入学生数は定員の２４０名である。入試選抜では、定員に対し推薦４３名を含む２５５名が受検し、倍率は１．１倍であった。平成３０年度の新入学生を含めると、在校生数は７１７名となる。
続いて、平成２９年度卒業生の進路状況について、報告する。
進学については、希望者１７０名に対し１６５名が決定し、決定率は９７．１％となって

いる。
　就職については、希望者６７名全員の就職が決定しており、決定率は１００％である。
　進学者の内訳は、国公立大学１１名、私立大学５６名、短期大学２０名、看護専門学校３７名、専修学校が４１名となっている。
　就職者の職種については、事務職２５名、営業１０名、サービス４名・生産労務１０名、運輸通信１名、公務員１７名となっている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

（山口委員）
　進学者の内訳について、看護系の進学先として最近は看護大学を勧める傾向が強いようだが、北陽高校での看護大学の進学者数を把握しているか。
（和田北陽高等学校事務長）
　日本赤十字北海道看護大学に４名、日本医療大学に１名、慶応義塾大学看護科に１名、進学している。
（松尾委員）
　入学後の生徒数減について、退学者の人数は他校と比較して少ない方なのか。
（和田北陽高等学校事務長）
　他校との比較した資料は持ち合わせていないが、印象として最近の北陽高校の生徒は、真面目な生徒が多いように思う。

【公開案件】報告事項
（３）平成３０年度　釧路市奨学生の決定について

（仲谷学校教育課長）
　釧路市の奨学金貸与制度は、昭和２９年に始まり、平成２９年度までに延べ３，１３６名に貸与してきた制度である。
　最初に平成３０年度の奨学生の募集人数及び応募状況について、貸付の基金（原資）の関係から釧路・音別地区と阿寒地区の２つの地区に分けてご報告する。
　なお、阿寒地区の枠については、前田一歩園財団様からのご寄附が原資となっており、寄附者の意向により、他地区への振替はできないこととなっているため、地区を超えての振替は行っていない。
　募集合計は５４名で、応募人数は３１名で、年々減ってきている。
　次に、選考については、３月２２日に開催された、釧路市奨学審議会において、学業・人物・身体、及び家計の状況などから、総合的な審議を行い、奨学生を選考したところである。
　続いて、審議会での選考の状況をご報告する。
　学業評定及び年齢において基準に満たない方がいなかったため、応募者３１名全員を決定

したところである。
　しかしながら、審議会後に釧路・音別地区における大学の採用者のうち、２名が奨学金を辞退されたため、平成３０年度の学校区分別・地区別の奨学生の内訳は、高等学校は釧路・音別地区のみ１名、高等専門学校は釧路・音別地区のみ２名、専修学校・大学は釧路・音別地区２３名、阿寒地区３名となり、最終的な平成３０年度の釧路市奨学生は計２９名となっている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

（岡部教育長）
　決定人数が募集人数内に収まっていることは、何年も続いているのか。
（仲谷学校教育課長）
　ここ４年くらいは、募集人数を超えていない。超えても、奨学金の辞退等で最終的には募集人数内に収まっている状況である。
（岡部教育長）
　所管課としてどのように思うか。
（仲谷学校教育課長）
　高等学校については、国の授業料免除の制度が出来上がっており、奨学金を利用しようという方は少なくなってきている。その枠を大学に振り替えるか、今後の課題と考えている。

【公開案件】報告事項
（４）平成２９年度　全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について

（土江田総括指導主事）
　２月２７日の教育委員会２月臨時会において、速報の形でご報告させていただいた、「平成２９年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果における、釧路市の小・中学校の状況について、小学校５年生・中学校２年生の男女別の調査結果がまとまったので、ご報告する。
　本年度の調査は、昨年度同様に悉皆調査となっており、釧路市のすべての小・中学校の調査結果であり、調査対象は小学校５年生と中学校２年生の男女である。
　調査結果の概要については、釧路市の児童生徒の体力・運動能力は、中学校女子を除いて、昨年度と比べて改善が見られ、全道平均を上回る又はほぼ同等の結果となった。特に小学校５年生女子の体力合計点においては全国平均を上回り、種目別でも「握力」や「上体起こし」等６種目で全国平均を上回る結果であった。
　中学校２年生女子については、全国平均との差が４ポイント程度、全道との差が１ポイント程度であり、前年度との比較では「長座体前屈」「反復横とび」「持久走」の３種目で改善できており、３年前の小学校５年生時の結果との比較では、体力合計点において改善してい

ることから、これまでの体力向上の取り組みの効果をうかがうことができる結果であった。

また、体格調査からは、肥満傾向児の出現率は昨年度に比べてやや低下しているものの、全国平均との比較では引き続き高い結果であった。

小学校５年生の調査結果について、実技の調査結果では、体力合計点において、男女とも全道平均を上回っており、全国を下回った男子で、その差がマイナス０．３ポイントと前年度よりその差が狭まり、より一層改善された。

小学校の特徴を種目別にみると、「立ち幅とび」の種目においては、全国平均を上回る又はほぼ同等の結果で、“力強さやタイミング”といった瞬発力に関して、昨年度より改善が見られた。

一方で、「５０M走」、「ソフトボール投げ」の種目において、全国・全道平均を下回っており、“走る”と“投げる”運動能力、“素早さやスピード”、“運動を調整する力”について課題がみられた。

体格の調査では、男子の身長・体重、女子の体重の項目で全国平均を上回っていた。また、北海道の肥満傾向児の出現率は、全国の中でも高い状況ですが、本市は男女ともに北海道の肥満傾向児の出現率よりも高く、肥満傾向が強い事が明らかとなった。

中学校２年生の実技調査の結果について、中学校男子において体力合計点で全国平均を下回るなど、まだ課題が見られるが、全国平均を上回っている種目が４種目と昨年度より増加し、改善の傾向がうかがえる結果であった。

また、小学校５年生の結果と同様に「５０M走」、「ハンドボール投げ」の種目に加え、男女ともに「２０Mシャトルラン」の種目においても、全国・全道との差が見られ、“走る”と“投げる”運動能力に加え、“全身持久力”に課題が見られた。

体格の調査では、身長・体重の項目で全国平均を上回っており、また、肥満傾向児の出現率が、全国平均より高く、肥満傾向に関しては、経年変化では減少しているものの、小学校５年生と同様の結果であった。

運動習慣等に関する質問から本市の子どもたちの傾向が顕著に現れている項目について、運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きと回答している割合は、小学校女子・中学校男子において全国平均よりも高い結果であった。

また、健康のために運動を行うことが大切だと回答している割合は、小学校男女、中学校男女において全国平均を上回っており、体を動かす事への意欲の高さが分かる結果であった。

小学校での１週間における、体育の授業以外での運動やスポーツの合計時間は、まったく運動しないと回答した割合が男女とも、全国平均を上回っている一方、４２０分以上運動をしていますと回答した割合は、男女とも全国平均を上回っているなど、二極化の傾向を読み取ることが出来た。

中学校での１週間における、保健体育の授業以外での運動やスポーツの合計時間は、まったく運動しないと回答した割合が男女とも全国平均を上回っている。しかし、小学校とは対象的に４２０分以上の運動をしていますと回答した割合は、男女とも全国平均を下回っていたことから、中学生の放課後の時間の少なさが、運動時間の少なさと連動しているものと考えることが出来る。

小学校の体育、中学校の保健体育の授業は楽しいと回答している割合は、小学校女子では全国平均を上回っているが、小学校男子と中学校男女では、全国平均を下回っている。

さらに、学校の運動・部活動や地域のスポーツクラブへの所属については、小・中学校ともに全国平均と比べて低く、総じて、運動をしている子どもとしていない子どもの二極化の傾向が今年度もみられた。

これらの結果から、これまで取り組んできた学校の体育・保健体育の授業において運動量を確保することや苦手な運動ができるようになる達成感や喜びを実感させること、授業以外の時間に運動習慣を確立するための各学校での１校１実践などの取組の成果が出てきているものと読み取ることが出来る。しかしながら、いまだ課題の残る点もあることから、体育・保健体育の授業を楽しいと感じさせる授業づくりなどの授業改善を今後も進めていきたいと考えている。

また、体力向上を意識した生活習慣の改善を図るには、家庭や地域の理解と協力が必要不可欠であることから、今後とも運動を日常生活の中に取り入れるため、児童生徒の実態を周知し、改善に向けた取組や日頃から運動やスポーツの話題が出てくるよう、家庭や地域と連携を図ることが大切であり、体力・運動能力の向上に向けた取組をさらに推進していかなければならないと考えている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

（山口委員）

２、３年前、釧路市の体力向上の取り組みが全国的に評価され、報道もされた。全国平均を上回るまでに改善された部分もあり、継続した取り組みの結果だと思う。ただ、スポーツをすることが好きという割合が昨年に比べ、少なくなっている。この原因を考えた時、このような調査に対する取り組みが先行してしまい、本来のスポーツを楽しむという視点が忘れられてしまうことが危惧される。調査の結果ばかりに気を取られ、本末転倒にならないようにお願いしたい。

（松尾委員）

家庭や地域と一緒に取り組んでいくことが重要であると思う。学校での体育の授業では、時間が限られている。日頃の生活の中で、家庭で取り組めることがあると思う。スポーツを楽しむことを家族、地域ぐるみで考えていけたらよいと思う。

（小出委員）

小学校、中学校の体育の時数はどのぐらいか。

（髙松教育指導参事）

小学校高学年から中学生までは週３時間、小学校の低学年は週に２時間位である。

（小出委員）

基礎的な体力も必要だが、体の使い方が下手な子どもが多い気がする。また、体育の授業でも技術の習得が目的となっている場合が多いが、それだけでなく、もっと楽しんで体を動かせるような授業づくりを考えてもらいたいと思う。

（髙松教育指導参事）
　体力や運動能力は継続的に反復して行う習慣が大事だが、学校の授業時数では限界があり、小学校では、休み時間に遊びの中で運動に親しめるよう工夫している。しかしながら、以前とは、子どもたちの遊びの質の違い等があり、日常の生活の中での運動が必要であると認識している。
（山口委員）
　子どもたちの１日の歩数では、都会の子どもたちの方が多く歩いている。釧路市では、保護者が子どもを送迎していることも多く、子どもの脚力の低下も気になる。

【公開案件】報告事項
（５）ゴールデンウィーク中の生涯学習施設の開館等について

（澤口生涯学習課長）
　生涯学習部所管の施設を一覧にし、開館については〇印で示し、休館については×印で示している。また、それぞれの施設において、ゴールデンウィーク中に実施を予定しているイベントについては、「主な行事・イベント」の欄に記載している。
　なお、阿寒国際ツルセンター別館タンチョウ観察センターについては夏期休館中となっており、柳町アイスホッケー場、釧路アイスアリーナ、春採アイスアリーナについては、各施設とも設備改修のため、休館となっている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

（山口委員）
　阿寒町公民館と音別町ふれあい図書館について、ゴールデンウィーク中に３連休となっている。地域性もあることと思うが、利用者の視点に立ち、利用しやすいようにしてほしい。
（牧野阿寒生涯学習課長）
　阿寒町公民館については、以前のゴールデンウィーク中の利用状況が極めて低く、条例、規則に照らし合わせ、閉館としたものである。既に地域に浸透していること、費用対効果の面からも、現状のとおりとしたい。
（松尾委員）
　市民球場について、４月２８日から３０日まで閉設しているのはなぜか。
（工藤スポーツ課長）
　条例施行規則において、５月１日から１０月１０日までが開設期間と定められており、さらに必要と認められる場合は変更できる。今年度の４月２８日から３０日までは、大会に使用が予定されている。

【公開案件】報告事項
（６）平成３０年度　市立美術館事業について

（永井美術館長）
美術館の今月の日程では、現在ギャラリーＡにおいて「釧路の美術をささえた画廊の仕事」を開催中である。
次に５月から始まる、本年度特別展の１本目として、５月１２日（土）から６月２４日（日）まで、「チェブラーシカ」展を開催する。ロシアの国民的キャラクターとして人気を誇り、日本でも広く親しまれているチェブラーシカの絵本を中心に、ロシアアニメの世界を紹介する。
特別展の２本目は、７月７日（土）から開催する「棟方志功の福光時代展」である。版画家、棟方志功は明治３６年青森市に生まれたが、昭和２０年から２６年までは戦禍を避け富山県福光町に疎開し、多くの作品を制作した。本展ではもう一つの故郷とも言えるこの福光疎開時代に焦点をあて、版画や書、絵画作品を中心に約１２０点を紹介する。
次に、特別展の３本目は、９月２３日（日）から開催する「絵画で国立公園めぐり」である。本展は栃木県にある小杉方庵記念日光美術館所蔵の国立公園絵画コレクションなど８０点を当館ほか、全国３会場で巡回するものである。
道展・釧路移動展、釧路郷土作家展も例年どおり開催する。
その他の事業では、所蔵作品等巡回事業として、阿寒・音別地区での美術館所蔵作品の公開や北大通を中心に、サテライト会場を設定したマチナカギャラリーの開設を予定している。

◎特に意見なし。

【公開案件】報告事項
（７）第１２回　全日本少年アイスホッケー大会（中学校・男子の部）の開催結果について

（工藤スポーツ課長）
平成１８年度より実施されている、全日本少年アイスホッケー大会（中学生・男子の部）の第１２回大会が、３月２４日から２８日までの５日間の日程で開催された。
本大会はアイスホッケーを通じて中学生の憧れとなるスポーツ拠点を目指すとともに、スポーツの振興と地域の活性化を図ることを目的とし、本年度は地元選抜の２チームを含め、全国各ブロックから選抜された２４チームが参加し、選手や関係者など約５００名が来釧された。
大会日程では、６ブロックに分かれての予選リーグ戦と決勝・順位決定トーナメント戦のほか、スケーティングやシュートの技術を競うスキルチャレンジが行われ、選手はもとより観客も大いに盛り上がったところである。
また、日本製紙クレインズの選手と選抜されたメンバーによるエキシビジョンマッチも実施され、参加した選手や関係者皆さまにとって、思い出に残る大会となったものと思う。

大会結果については、４年ぶりの王座奪還に向けて出陣した釧路選抜Ａが準決勝で苫小牧選抜を３対２で破り決勝進出を果たし、決勝戦では、栃木選抜との対戦カードとなった。結果は延長戦の末３対２で釧路選抜の優勝という結果になったが、決勝戦らしく白熱する展開となり、延長戦残り時間１６秒での劇的決勝ゴールにより４年ぶり７回目の優勝を勝ち取ったところである。

次回の大会での地元チームによる連覇を是非とも期待をするところである。

大会の開催にあたっては、毎年、地元競技団体の献身的な運営協力と市民ボランティアによるご支援や有志の方々による「おもてなし」など、地域が一体となって支えていただいた。

なお、本大会は、一般財団法人・地域活性化センターの「スポーツ拠点づくり自立促進事業」として、今後６年間の継続事業として実施していく。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

（山口委員）

準決勝と決勝の試合を観戦したが、ベスト５とＭＶＰに春採中学校在籍の生徒がいた。中体連では地区予選等で敗退し、全国大会に出場できなくとも、このような大会で活躍の場が得られたことは、その子の人生に大きな影響があると思い、嬉しく感じた。この大会が継続事業となり、良いことだと思う。

また、関係者のおもてなしも充実していたとのことであったが、一番のホスピタリティは地元の皆さんの応援で、会場が熱く盛り上がることであると思う。市民や中学校へのＰＲや働きかけが、もっと行っていい気がする。

【公開案件】報告事項

（８）釧路市動物園の展示動物の動向等について

（松本ふれあい主幹）

まず、キリンの同居再開についてご報告する。

アミメキリンの雄スカイと雌コハネの同居を、３月２９日から開始した。今年の冬は雪が少なく、また例年にない暖かさであり、屋外の飼育場の雪が解け、地面の凍結も例年になく早く解消されたことから、初めての同居を行った昨年よりも２０日早く同居を開始することができた。

現在、コハネには強い発情が現れておらず、交尾行動はまだ見られていない。キリンでは約２週間間隔で雌の発情が起こり、昨年の同居では、交尾に成功したが、繁殖には至らなかった。動物園では、今シーズンに交尾が成功し、コハネが妊娠することに期待をしているところである。

釧路の秋や冬は寒さが厳しいことから、出産が夏になるようにしたいと考えており、キリンの妊娠期間はおよそ４５０日であることから、スカイとコハネの同居期間は概ね６月まで

と考えている。
　続いて、ホッキョクグマの同居訓練再開についてである。
　３月１９日から２４日まで、雄のキロルと雌のミルクの同居訓練を行った。期間中、キロルはミルクの動きを抑制する行動が見られたが、二頭の間で闘争は見られなかった。しかし、ミルクには発情が見られず、また同居訓練で二頭にストレス症状が見られたことから、２５日から訓練を一旦中止した。
　動物園では、ホッキョクグマの繁殖を進める為、同居訓練を４月６日から再開した。同居訓練については、２頭の様子を見守りながら、ホッキョクグマの繁殖シーズンが終わる４月下旬頃まで続けたいと考えている。この訓練が上手く行き、繁殖に成功することを願っているところである。
　最後に、シマフクロウのヒナの孵化についてご報告する。
　釧路市動物園では希少鳥類の保護増殖に取り組んでいる。その中でシマフクロウの繁殖にも取り組んでおり、現在、３つがいを飼育している。このうち、メスのラライ、オスのフラトのつがいから、４月８日にヒナが生まれたことが確認された。このつがいは２月２７日と３月３日に産卵が確認され、メスのラライが抱卵していた。動物園では巣箱に設置したカメラから孵卵の様子を観察していたが、４月８日１７時４０分にヒナの孵化を確認することが出来た。このつがいは昨年、初めてヒナを孵したつがいで、２度目のヒナの孵化となる。自然育雛でヒナを育てる予定であるので、今後はつがいがヒナを無事に育てられるように、観察していく予定である。
　なお、このつがいは非公開ケージで飼育されているので、一般の方へのヒナの公開は、現時点では未定である。

◎特に意見なし。

【公開案件】報告事項
（９）学校の現状について

（髙松教育指導参事）
　平成３０年度の研究指定校については、昨年度からの継続校として湖畔小学校・鳥取小学校・景雲中学校・阿寒湖中学校の４校が指定校２年目となる。
　今年度は新たに３校の研究指定校を募集している。昨年度までのように実物投影機等のセットとはしていないが、３月の予備調査において、５校から希望の意思表示ともとれる報告があり、状況によっては選考が必要になる。
　また、継続研究指定校は、１１月１５日に公開研究会を開催する阿寒湖中学校をはじめ、すべての研究指定校が１１月中に公開研究会を開催する。
　全国学力・学習状況調査は、４月１７日（火）に実施する予定であり、３年ぶりに理科が加わり、国語、算数・数学、理科で全員参加の悉皆調査となる。

釧路市においては、すべての小中学校で実施することとしており、小学校６年生、中学校３年生ともに約１，２００名あまりの児童生徒が対象となっている。各学校では、解答用紙のコピーを取り、自己採点に取り組むほか、中学校調査における、小学校調査時の個人票コードの記載に備え、小学校に個人票コード一覧を作成する予定である。なお、本調査の結果の公表は、例年より１カ月早い７月下旬を予定している。

次に、指導資料「釧路市の教育」を４月初めに釧路市小中学校の全ての教職員に配布した。平成２５年度より、第１章に「釧路市学校改善プラン」を位置づけ、全国学力・学習状況調査や釧路市標準学力検査から見受けられる釧路市の子どもたちの傾向と授業改善の方向性を掲載し、学習指導の工夫・改善に活用いただくことを狙いとしている。その他、第２章では、新学習指導要領の実施に向けた道徳や外国語活動等の改訂のポイント、研究指定校の取組、学校力向上に関する総合実践事業の概要を紹介しており、校長会等を通じて、積極的に活用されるよう、お願いしたいと考えている。

今年度の研究会情報と記念行事関係等については、今年度の全道音楽教育研究大会が１１月２日、全道中学校技術・家庭科研究大会が１１月７日、２つの全道大会規模の教育研究大会が開催される。

次に周年行事については、湖畔小学校が開校１００周年記念式典を１０月２７日（土)、芦野小学校が開校３０周年記念式典を１１月１７日（土）に開催する。

また、中体連においては、春採中学校が事務局校となり、全道中学校柔道大会が７月２６日から開催される予定である。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

（山口委員）

研究指定校について、中学校は今まで、教科の壁があり全校的に授業改善が進めづらい側面があり、学ぶ機会が少なかったと思う。景雲中学校と阿寒湖中学校が指定されていることで、公開研究会に先生方が数多く参加され、授業改善のノウハウを自校に持ち帰り、実践していただきたい。

また、全国学力・学習状況調査について、結果の公表が例年より１カ月早いということであったが、この調査の導入の目的は結果を比較することだけでなく、課題を見つけ改善に向けて取り組むことである。７月上旬に結果が分かれば、夏休み中の補充学習や課題に活かせるし、そして２学期の学習活動により充実発展させていくことができる。教育支援課としてどうか。

（土江田総括指導主事）

おっしゃる通り、もう少し早く調査結果の提供があれば、夏休みに向けて活用できるが、今年度については結果ができ次第、各学校での改善点を明らかにし、研究センターの研修講座と兼ね合わせ、早めに取り組む予定である。

（種村委員）

全国学力・学習状況調査に関係して、今回の高校入試では理科の問題が難しく、応用力が

必要とされる問題であった。これは２０２０年の大学入試改革を意識しているのではないかと思う。このような流れがある中で、釧路市標準学力検査の科目に、理科を追加することは考えていないのか。英語も、今後は読むだけでなく、書くこと、聴くことが重要になっていくと思う。先を見通した取り組みが必要ではないか。

（髙松教育指導参事）

釧路市標準学力検査については、従前通り国語、算数・数学のみの実施としている。中学校においては、市教委にて国語、算数・数学を負担し、他の教科は学校の負担で行っている学校が多くある。